

日体魂

日本体育大学
東京都同窓会会報

第16号

平成27年6月1日発行
発行者 東京都同窓会長

高田 幸一

日体大が征く

—新しい日体大像を求めて—

学校法人 日本体育大学 理事長

松浪 健四郎

日体大は、私の母校である。母校の理事長に就任させていただいで、早や4年の歳月が経つ。就任時、決意させていただいたことは、「魅力的な大学づくり」と「世界一の体育大学を目指す」、「からだにまつわる科学と文化の総合大学化」等である。

ほぼその方向性は、いまだ設計図段階ではあるにつけても、一応、推進しつつあるか。私一人では何とできない。教職員が理念を理解し、協力していただ

かねば実現しないのは多言を俟つまでもなからう。とりあえず、「選手強化」「国際化」「ワンファミリ

化」策を理事会決定し、どんどん前進させることにした。これらの項目は、別段、目新しいものではない。普通、一般的なことであり常識的な事柄でしかない。が、今までの日体大にはビジョンはなく、その日その日を過ごす伝統校でしかなかったかに映る。いわゆる歴史に胡坐(あくら)をかき、法人と大学であつたと思われる。

改革という大ナタを振ると、必然的に反発を招かされる。序々にチェンジする施策こそが受容されると決めつけ、一步一步チェンジして行くように心がけてきたつもりである。

「選手強化」は、体育大学にあっては生命線である。弱い日体大であれば世間は認めてくれないばかりか、メディアの露出がなくなる。話題づくりと平行して、強化策を練らせていただき、法人も協力し大学まかせにしてばかりでは限界がある。やがて日体大の記事は各紙で踊るようになるに努力中だ。

「国際化」は、申すまでもなく社会はグローバル化されていて、国際人を養成することも大学の使命となつて久しい。私自身、海外生活が長かつたし教員経験もある。当初、大学側は、あまり熱心ではなかったが、嬉しいことに協力的になり、今年は10ヶ国からの留学生を迎え入れる

ことができたのである。

JICA(国際協力機構)と協定を結び、青年海外協力隊員として今年には20名の卒業生を発展途上国に派遣し、20名の在生を一ヶ月間、カンボジア、モルジブ、ブラジルに体育教員、スポーツ指導で派遣していただいた。学内には「グローバル・カフェ」を設置し、いつでも英会話を学べるようにもした。

「国際交流センター」を昨年スタートさせ、留学手続きから留学生の受け入れ等、国際化に対応できるようになつている。また、JICAの試験指導・協力国際化の最前線での協体制が整うようにもなつている。

青年海外協力隊員は、帰国後、東京都も教員、役人の試験では学科が免除される特典があるゆえ、さらに多く派遣したいと考え

「ワンファミリー化」は、

学校法人日本体育大学が設置するすべての学校が一丸となつて協力・團結することである。今まで各学校がバラバラ、独自に動いていたが、同一法人の学校、姉妹校が協力しないのはおかしいと考えた。できることを、可能なことを話し合つて実行することにした。

その効果は如実に現れ、高大連携の絆は強化され、日体ファミリーは文字どおり一つになりつつある。かくして、大学を中心に魅力的な存在にすべく、あらゆる施策を講じている途中である。網走市に特別支援高校を平成29年に開校し、社会貢献とパラリンピック対策にも取り組む。同窓のパワーをお借りしなければならぬばかりか、今後は同窓会のご協力をあらゆる面でいただかねばならぬ。よろしくお願い申し上げます。

平成26年度 教員採用選考結果について

日本体育大学
学生支援センター
キャリア支援部門
大山 茂

東京都同窓会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本学に対しまして、ご高配を賜り有難うございます。

平成26年度に行われた教員採用試験についてご報告いたします。今年度現役合格者は25名となりました。内訳は、保健体育教諭18名、養護教諭1名、小学校教諭6名です。

自治体別の合格者は、東京都7名、神奈川県3名、千葉県2名、栃木県1名、群馬県1名、茨城県1名、愛知県1名、兵庫県1名、滋賀県1名、三重県1名、岐阜県1名、大分県1名、横浜市2名、川崎市1名、堺市1名です。

現在の教員採用試験の現状は、全校種、全教科総

じて5・1倍であり、合格者数は、8%増加しています。東京都保健体育教諭については、合格者数1496名、倍率は10・1倍でした。

今年度合格者のうち、6名小学校教諭を輩出いたしました。平成25年度より明星大学と提携を結び、通信教育課程を経て、在学中に小学校教諭二種免許状を取得することができるようになりました。提携のプログラムを受けるための選考に合格し、本学での授業や課題、部活動をこなす、それに加えての通信課題を計画的にこなさなければなりません。本プログラムで免許を取得し、さらに教員採用試験に合格した6名の学生達は、目的意識や、学習の計画性を持ち、

何よりも小学校教員になりたいという気持ちを強く持って取組んだ結果が今回の合格に結びついたと感じています。

本学の学生支援の特徴としては卒業後も支援を受けられることが可能という点です。二次試験対策講座は本学のOB・OGを講師に招き、7月下旬から8月中旬にかけて約20日間、人物試験の対策講座を実施しています。具体的には、個人面接、集団面接、集団討議、模擬授業、論文文の添削等、在学生、既卒生が分け隔てなく交わりあいながら講座を受講します。平成26年度は延べ人数、在学生313名、卒業生268名が参加し、その中から53名の合格者を出すことができました。

現在、在学生に向けて教員の質の保証を目指し新たな取り組みを行っております。ひとつめは、「教員免許取得必修プログラム(旧・教員になるには講座)」です。1年次より、教育法規に触れ、教育の目的、教員の職務、使命を知ること、またそこから理解することにつなげております。そして、平成27年度より、本プログラムの充実を図り、1年次に学習計画書の作成、法規暗記、2年次には、教員採用模擬試験受験、3年次には教員への志望動機書の作成という新たなステップを設けました。1年次より、目的意識を持ち、計画的に行動することを身につけることを目的としております。

日体大らしい教員をより多く養成するべく、同窓会、教員、学生支援センター、と三位一体となった支援体制の構築を目指しております。今後とも学生への支援を賜りますようお願い申し上げます。

実習巡回指導の思い
東京都同窓会副会長
高山 士

今年も教育実習という古く、懐かしい思いのする教員養成の季節が、全国ではじまった。

日体大東京都同窓会では、後輩学生の教育実習を支援すべく、大学と「協働」し十数年前より取り組んでいる。

この活動は、後輩学生の単なる「実習見守り」に留まらず、マンツーマンでの事前指導、該当校への巡回指導・事後総括指導などを柱とし、過去に自校へ実習生を受け入れていた立場の管理職の力を借り、直接指導していただくという積極的・画期的な取り組みを行っている。

聞くところによれば、些かOBとしては面映いところもあるが、この指導の在り方はユニークで実効のあるものとして評価をいただいている。

今年、都公私中高一五八校、二〇一名の学生に対して五二名のOB・OG元管理職で指導している。

数年前に各大学の実習生を勤務校に受け入れてきた立場から少々複雑な思いを禁じ得ない。具体的には、授業機会を得るばかりでなく、教育活動の様々な現実の姿を体験しつつ、生徒一人ひとりの個性・集団の現実・生活の実態・教員集団の姿まで学んでもらっている。

実習生の中には、「目から鱗」なのか生き生きと学ぶ学生、想像と現実の乖離に悩む学生、単位時間の指導計画に汲汲とし、期間の三週間で5kgも痩せた学生も散見でき多様であった。

求人倍率が一・一五倍と改善されてきてはいるが、少子化等で教員の道は厳しくなってきた。この教育実習を

挺に力をつけ尊敬される新人教員に登り詰めてくれることを願っている。

因みに、日体大入学当初に教員を志向していた学生が八五%と聞く、それなら免許取得の機会を得ながら、先輩・恩師を目の当たりにして自己実現のためだけに突き進んで欲しいものだ。

平成27年5月8日

東京都教員採用候補者選考平成27年度受験対策講座の開催

教育支援委員会

副委員長 五石 秀治

昨年度に引き続き、東京都同窓会として受験対策講座を組織的で計画的に運営し、学生や卒業生の教員志望者が積極的に受験するように促すことをねらいとし、教員志望者が一人でも多く選考に合格し採用されるように支援することを目的として、平成27年度受験対策講座の開催することとなった。昨年度実施内容の振り返りをうけて、今年度は12月から準備を行い、計画を練ってきた。平成27年2月13日（金）東京都同窓会第4回教育支援委員会で指導計画の原案を協議し、内容が決定された。

今年度は、受験者が計画的に準備をするための期間を考慮した。学生が教育実習に入る前の、4月25日（土）、5月2日（土）の2回実施し、本学卒業生で東京都教育庁人事部管理主事・都立高等学校校長経験者小巻氏による講話や教職教養問題等の指導を通して教育実習に取り組む意識を高められるように指導することとした。また、教員採用選考受験への意欲を高めることをねらいに、6月21・28日（日）の2回を後半に実施し、受験直近の心の準備を整えることをねらいとして、受講者に東京都教育庁人事部管理主事・都立高等学校校長経験者小巻氏による講話、論文指導を個別的に指導することを取り入れた内容で実施することとした。

平成27年3月初旬には、全国同窓会のホームページ（HP）と学内の電子掲示や印刷物の掲示により、受講生の募集を計画した。前半2回は、諸般の事情により全国同窓会のHPでのPRができなかった。このために、卒業生の受講申し込みができず、参加者がいない状況となってしまった。これは、情報発信を東京都同窓会が主体的にできないということであり、今後の反省点であるとともに、東京都同窓会の事務局と受験対策講座の運営体制づくりに問題があると考えられる。第3回以降は、全国同窓会のHPにも案内が掲載され、本学校友課と学生支援センターの協力を得て、卒業生の受講生を募る計画である。

なお、前半の2回は、平成27年4月25日（土）、5月2日（土）10:00から開催された。申込者に対して受講者が少ない傾向は昨年と同様である。講座の指導内容と講義・講話などに関する受講生の感想・意見等は別掲のとおりである。

東京都教員採用候補者選考平成27年度受験対策講座 第1回・第2回アンケート集計

受講者評価アンケート			第1回 平成27年4月25日実施						第2回 平成27年5月2日実施							
受講者の自己評価	評価内容		5	4	3	2	1	合計	平均	5	4	3	2	1	合計	平均
	A	講義や演習の内容は、事前に準備を行ったり、前もって持っている知識があった。	0	6	5	3	2	47	2.9	2	8	5	1	0	59	3.7
	B	講義や演習の内容を理解し、自分の課題や目標を発見することができた。	7	6	3	0	0	68	4.3	3	8	5	0	0	62	3.9
	C	講義や演習の内容を生かして、自分の受験対策を考えることができた。	6	7	2	1	0	66	4.1	4	6	6	0	0	62	3.9
	D	講義や演習の内容により、学習や受験の準備について理解し、実践できるようになった。	3	6	6	1	0	59	3.7	2	8	6	0	0	60	3.8
	E	講座を受講したことで受験に意欲を持ち、積極的に取り組むことができる。	9	5	2	0	0	71	4.4	9	3	3	1	0	68	4.3
第1回	受講者の参加状況		受講者の自己評価のまとめ	評定記号	割合	第2回	受講者の参加状況		受講者の自己評価のまとめ	評定記号	割合					
	(事前)受講申込者数	26		5	31.3%		(事前)受講申込者数	35		5	25.0%					
	(当日)受講申込者数	1		4	37.5%		(当日)受講申込者数	0		4	41.3%					
	出席者数	18		3	22.5%		出席者数	16		3	38.8%					
	事前申込者数/出席者数	69.2%		2	5.0%		事前申込者数/出席者数	45.7%		2	2.5%					
	アンケート回収数	16		1	3.8%		アンケート回収数	16		1	0.0%					

受験対策講座の様子



編集後記

今号では東京都同窓会の教員採用選考受験対策講座について御報告致しました。

受講している学生は選考突破に向けて熱心に取り組んでいます。引き続き、一九六四年

や二〇二〇年の東京オリンピックに纏わるお話をぜひご寄稿ください。また、都同窓会の活動、会報第16号へのご意見やご感想、次号以降についての要望など、是非お聞かせください。